

長良川河口堰の更なる弾力的な運用に関する意見交換会 設置趣意（運用開始後）

長良川河口堰は、平成7年7月の運用開始から、年間を通じて常に河川水を全ゲートから流下させるとともに、洪水時は全てのゲートを全開操作しています。

また、堰上流の水質保全のため、塩水が侵入しない範囲内で、平常時の越流流下に加えて、一時的に堰からの流下量を増大させる「フラッシュ操作（弾力的な運用）」を実施しています。

平成22年8月に開催された学識経験者で構成される「中部地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、長良川河口堰は、『フォローアップ調査計画に基づく調査が的確に行われていること』、『河口堰の目的である治水・利水について適切な効果を発揮していること』、『環境への影響等については堰運用前後で一定の変化はあったものの、近年調査結果は概ね安定した推移を示していること』から、『適切に管理運用されている』ことが確認されています。

平成23年4月より、適切な管理に向けた取り組みとして、長良川の河川環境の保全と更なる改善を目指した「長良川河口堰の更なる弾力的な運用（試行）」を開始しています。

この「更なる弾力的な運用（試行）」を円滑に進めるにあたり、長良川下流部の沿川の自治体や治水・農業・漁業・沿川等の関係者の皆様に、長良川河口堰の現状についてご理解をいただくとともに、「更なる弾力的な運用（試行）」についてご意見をいただくため、意見交換の場を設けるものです。